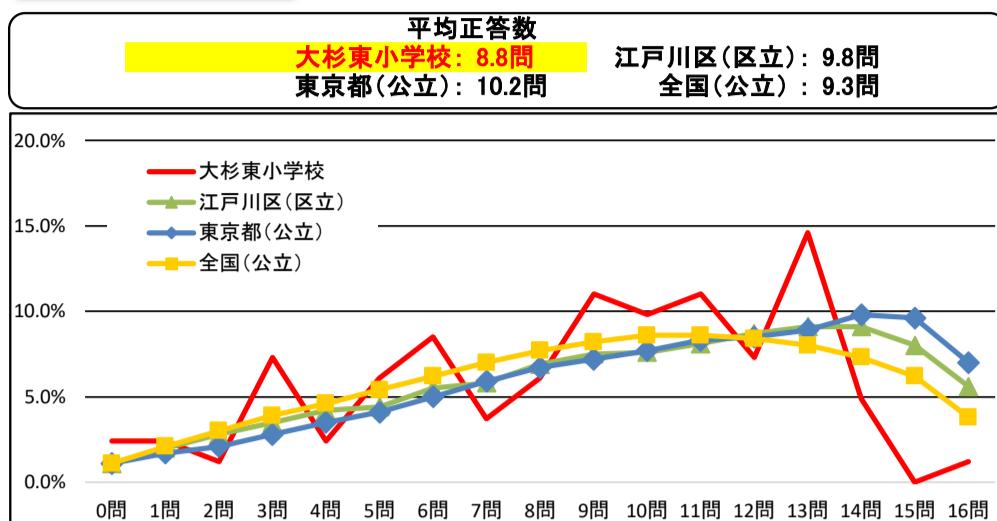
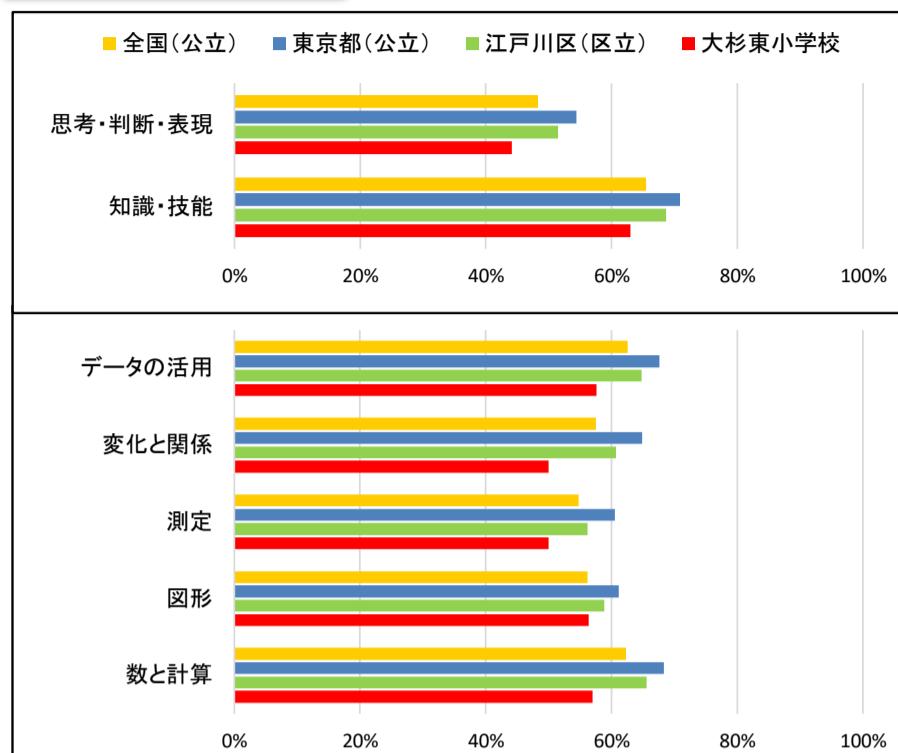


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】大杉東小学校

## 正答数分布



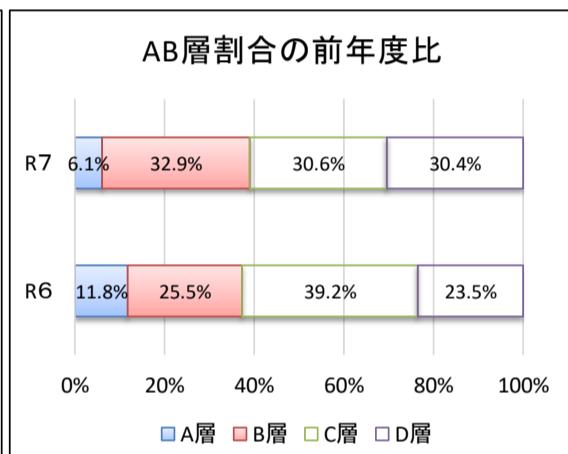
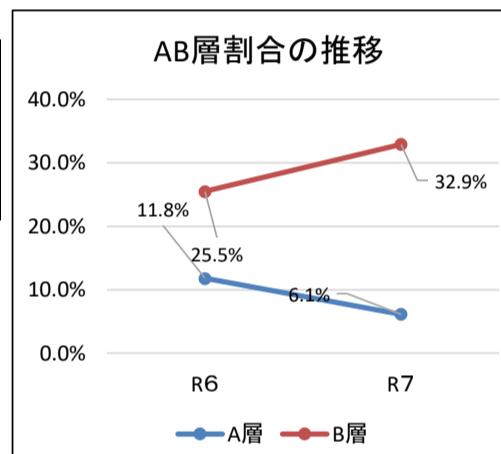
## 「領域別」の結果



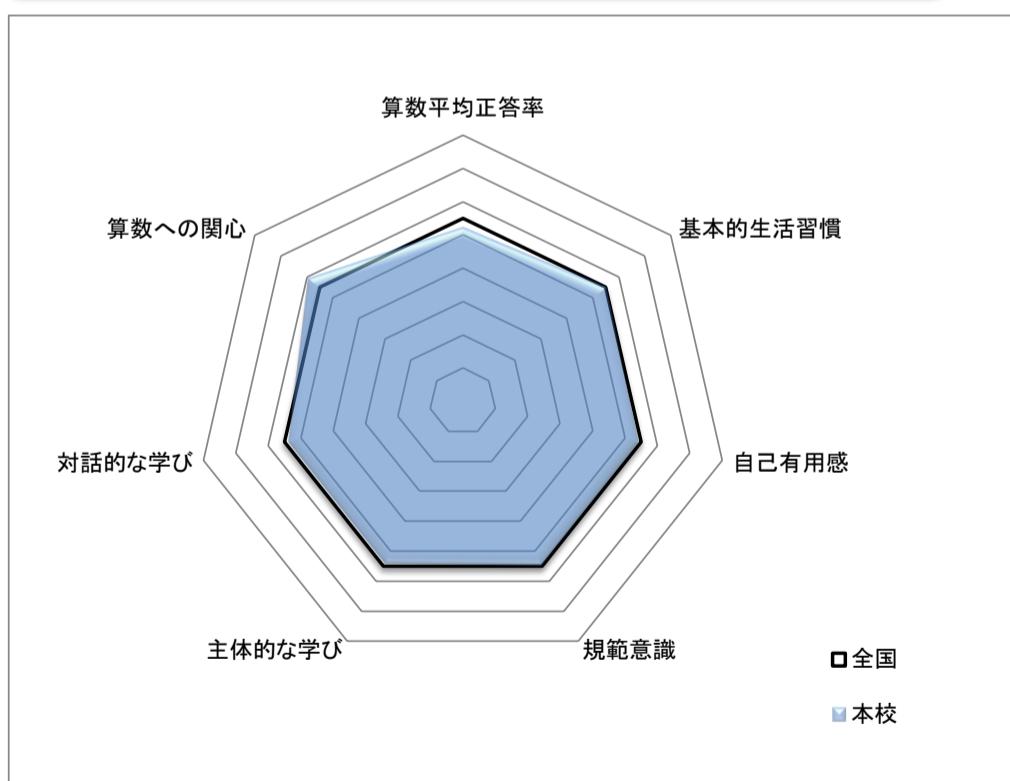
## 四分位における割合（都全体の四分位による）

| 算数       | A層     | B層     | C層    | D層    |
|----------|--------|--------|-------|-------|
|          | 14~16問 | 11~13問 | 7~10問 | 0~6問  |
| 大杉東小学校   | 6.1%   | 32.9%  | 30.6% | 30.4% |
| 江戸川区(区立) | 22.7%  | 25.9%  | 27.9% | 23.5% |
| 東京都(公立)  | 26.4%  | 25.7%  | 27.6% | 20.3% |
| 全国(公立)   | 17.3%  | 25.0%  | 31.4% | 26.3% |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》  
算数の平均正答率は東京都と比べ9ポイントも下回っているが、算数への関心は高い傾向にある。特に「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」の項目で肯定的な回答の割合が高く、少人数指導の成果が表れていると考える。他の領域は、どの領域も全国の肯定的な回答と同水準を示した。

《家庭・地域への働きかけ》  
年に3回の家庭学習週間を設定し、学習習慣を定着させるために家庭の協力を得て家庭学習に取り組んでいる。  
年に3回の学校評議員会で、学習の取組や学習状況について報告をしている。

## 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
本校のAB層の割合は39%で江戸川区と比べー9.6%、東京都よりー13.1%である。また昨年度と比べ、AB層の全体の割合は1.7%増加しているものの、A層の割合がー5.7%とA層の割合が低下している。  
本校では2年生以上において2学級を3コース、3学級を4コースの少人数に分け、それぞれ習熟度別の授業展開を行っている。AB層への取組として、個で問題を解くだけでなく、解き方を説明したり友達の考え方と比較したり別の解き方を考えさせたりする時間を多く設定している。また、補充問題は、児童の学習状況や習熟度合いによって問題を選べる教材を使用し、AB層児童の思考力向上をねらっている。

## 《学校の取組》

・教員の指導力向上  
OJT研修により、若手教員の指導力向上に向けた指導を行っている。  
校内研究協議会を通して、指導と評価の一体化を目指した教材研究や教材教具の作成について共有している。また、授業の展開や発問に着目した議論を行っている。  
それぞれの研修によって得られた情報等について、会議やC4thで共有を行っている。  
また、独自に研究した学習の成果等を共有している教員もいる。

## ・基礎学力の保障

放課後学習教室では、学習に課題のある児童に対して、学習カルテを基にした基礎学力の保障を行っている。  
タブレットを活用した百マス計算「東っ子検定」を学校全体で取り組むことで、加法・乗法の基礎基本の計算能力向上に取り組んでいる。

## ・学習習慣の確立

学校全体で江戸川区算数授業スタンダードを基にした授業展開を行っている。課題把握、見通し・自力解決、まとめ・適用問題の流れで学習を進めることで、児童が主体的に学習を進められるよう取り組んでいる。  
学校全体で家庭学習の定着を目指し、家庭学習ノートを作成している。家庭でも主体的に取り組めるように、算数と国語の課題を自分で設定し、学習習慣の定着を図っている。

## ・AB層の育成

本校のAB層の割合は39%で江戸川区や東京都と比べると、まだ低い位置にある。  
また、A層の割合がー5.7%と低下している。習熟度別授業において、基礎基本から応用問題へと主体的に取り組む姿勢が身に付くように、学び合いを基本とした授業を開催している。